

かいぶん 2回分、ぼくのものになる

その週、トーマスはずっと、自分のボートを
川に浮かべるのを楽しみにしていました。今日は
日曜日。お母さんとお父さんとお姉ちゃんの
ケイトと いっしょに、ウインドミル川に出かけます。

「ぼくのボート、世界一のボートだぞ！」トーマスは
行く とちゅうも、こうふんで いっぱいでした。

「確かに 見事だな！ ずいぶん 上手に 組み立てた
ものだ。」お父さんも 言いました。

ウインドミル川に着くと、そよ風が ふき始めました。
でも、トーマスはそれが どういう 意味なのか、全く
考えも しませんでした。トーマスは、自分の 宝物の
おもちゃの ことで、頭が いっぱいだったのです。

「見て、お母さん！ 本物みたいに 進むよ！」





けれども、トーマス一家が ボートに 見とれて
いると、急に 強い 風が ふいてきて、ボートは
どんどん 下流に 流されていってしまいました。
ボートの 向きを 変えるために トーマスが 使って
いた ぼうは、もう 短すぎて、とどきません！
お父さんも、ボートについて 川を 下って
行きましたが、木の しげみに じゃまされて、
ボートをつかむ ことが できませんでした。そして、
ついに ボートは 見えなくなってしまったのです。

トーマスは、とても 悲しい 気持ちで 家に 帰って
行きました。その 夜の こと。お母さんと トーマスは、
また その ボートを見つめる ことができるように
と 祈りました。

それから 何日か たった ある日の こと、トーマスと
お母さんは、買い物の 帰りに、思わぬ ところで
その ボートを見つけたのです。

「お母さん、見てよ！ ぼくの ボートだ！」

胸を わくわく させながら、トーマスが 指を
さしているのは、中 古の おもちゃを 売っている
お店の ショーウィンドウの 中でした。

「まあ、確かに あなたの と そっくりねえ！
中に入ってみましょう。」

「すみません。」 トーマスが 店長 さんを
よんで 言いました。「お店の ショーウィンドウに
置いてある、あの 小さな ボートは、ぼくのなんです！
この前 ウィンドミル川に 浮かばせて 遊んで
いたら、流されちゃったんです。」

「それは すまないね、ぼうや。だが わしは、
その ボートを 見つけて 持ってきた 少年に、高い
お金を はらってしまったんだよ。だから ぼうやも、
いくらかは はらわんとな。」 店長 さんが
言いました。

「だけど、その キットを 買ったのも ぼくだし、
組み立てたのも、ぼくなんですけど。」





「すまないねえ。だがなあ、もし その ボートを
と^{かえ}取り返したかったら、また そのために お金^{かね}を
はらわなくちゃいけないんだ。」

お母^{かあ}さんと トーマスは、お店^{みせ}を 出^でました。

「お母^{かあ}さん。ぼく、もう一度^{いちど}、その ボートを 買^かうよ。
おこづかいを ためて、十分^{じゅうぶん} たまったら、買^かい
もどすんだ。そうすれば、2 回分^{かいぶん}、ぼくの ものに
なるよ!」

「その間^{あいだ}に、だれも 買^かってしまわないように
いの^{いの}祈^{いの}りましょうね。」と、お母^{かあ}さんも 言^いいました。

「それと 同じ^{おな}ような こと^{こと}を した 人^{ひと}の こと^{こと}を、
おも^{おも}だ 思^{おも}い出すわ。」

「本当^{ほんとう}? お母^{かあ}さん、それは だれなの?」と、
トーマス。

「^{かみさま}神様は、^{せ かい}世界を ^{そうぞう}創造されたでしょ。そして、ご自分^{じ ぶん}に
にせて、最初^{さいしよ}の人間^{にんげん}である アダムと イブを ^{つく}造られた
わね。カンペキに できたのよ！ だけど、アダムと
イブは ^{まちが}間違っ^{えら}たことを ^{えら}選んでしまったの。それで、
人間^{にんげん}は ^{つみ}罪^くから ^{けっ か}来る ^{くる}結果を ^く苦しむ ことになっ
てしまったのよ。でも、^{かみさま}神様は ^{じ ぶん}ご自分の ^{そうぞうぶつ}創造物を ^{あい}愛して
おられたから、人間^{にんげん}を ^と取りもどしたいと ^{おも}思われたの。
それが、イエス様を ^{さま}この ^よ世に ^{おく}送られた ^{り ゆう}理由よ。
わたしたちの ^{つみ}罪の ^{つぐ}つぐないをして、わたしたちが
^{すく}救われるようにね。つまり、^{かみさま}神様は ^{かい}わたしたちを 2回、
「^か買って」^{さ い し ょ}くださったの。最初、わたしたちは ^{かみさま}神様の
ものだったけど、もう ^{けっ}決して ^{えい えん}永遠に ^{つみ}わたしたちの ^{つみ}罪が
わたしたちを ^{かみさま}神様から ^ひ引きはなす ことのないように、
また ^{かみさま}わたしたちのために ^{だい か}代価を ^ひはらってくださったの。」

「^{かね}お金を はらったら、ボートが また ぼくの ものに
なるみたいに？」

「ええ、その通りよ。」 ^{と お}お母さんが ^{か あ}うなずきました。

「^{かい}ぼくたち、2回 ^か買ってもらって、よかったね。」

トーマスが ^い言いました。



なんしゅうかん じぶん か
何週間か たつと、自分の ボートを 買いもどすために
じゅうぶん かね
十分な お金が たまりました。

おもちゃ屋さんに 行くと、トーマスは ボートを レジに
も 持って 行って、言いました。「ぼく、ボートを 買うための
かね も
お金を 持ってきました。」

てんちょう ふくろ
店長さんは ボートを 袋に 入れて、トーマスに
わた
渡しました。

ボートを かかえながら、トーマスは 声高に 言いました。
「ちっちゃな ボートよ、君は 今、2 回分、ぼくの ものに
きみ いま かいぶん
なったんだよ。だって、ぼくは おまえのために 2 回、
かね
お金を はらったんだもの!」

お
終わり

せい く かみ
聖句：神は その ひとり子 を たまわったほどに、この 世を
あい
愛してくださった。それは み子 を 信じる 者が ひとりも
えい えん いのち え
ほろびないで、永遠の 命 を 得るためである。(口語訳聖書、
ふくいんしよ
ヨハネによる 福音書 3:16)

